

一

問一 ① 獲得 ② 習俗 ③ 索引 ④ 勇敢 ⑤ 滑稽 ⑥ 娯楽 ⑦ 跳躍 ⑧ 伴侶 ⑨ 巖然 ⑩ 恣意

問二 X (解答例1) 詩文の手法は同一だが、表現された内容は違っていること。

(解答例2) 見た目は異なるが、内容は似たり寄ったりであること。

Y (解答例) 見かけを飾って中身をごまかすこと。見掛け倒し。

問三 A 顕 B 潜

問四 C 書いて

問五 (解答例1) 現在の英国人にとって、犬を食べることはおぞましい行為であり、存在を知っていても、言葉化してはならないタブーであるから。

(解答例2) ブリタニカのような立派な本が、必ずしも客観的な知識の集大成ではなくて、実はイギリス人が、彼等の価値基準で世界を解釈したものであるため。

問六 (解答例1) 異なる文化・風習を持つ国間において、正確な知識の伝達と伝承を行うためには、自国語の単語を外国語の対応語に置きかえれば

十分であるとは限らない。特に、人文科学など、人間の価値体系に依存する学問分野においては、「書かれていること」がどのような文化的フィルターを通した結果の情報であるのかに留意しつつ、客観的にとらえる必要がある。

(解答例2) 日本と西欧諸国の間には習俗の差があるため、文字化・言語化され、一見、客観的事実のように提示された事柄であっても、実は無意識下に抽出された断片的情報であったり、恣意的な解釈の結果であったりする場合がある。ヨーロッパ人に備わる実証的精神を過大評価せず、「事実」に見える記述や発言の背景に、特定の人間観や宇宙観が潜んでいる可能性について見極めようとする努力が必要である。

二

問一 ア 優美で

イ 惜しさ・もったいなさ・惜しいほどのすばらしさ

ウ 準備

エ 強情でなく・情にもろく

問二 ⑤

問三 どれほどの前世の仏道修行の怠けのせいで、隠岐島に流されるといふ辛い目に遭うのだろうか。

問四 海人の釣舟を見たことで小町の和歌を想起し、その和歌に描かれた、頼りもなく漂う我が身が悲しいという心情が、後醍醐天皇の気持ちと同じであったから。

問五 後醍醐天皇の、火をじっと御覧になっている御目元が、我慢しようするが、ひどく涙で濡れていらつしやるのを、行房中将が拝見すると、

三

問一 ① よりて(よって)

② わかくして

③ つねに

④ かつ

問二 酔っ払いの根も葉もないわごとと思わすことで、かえって監司からの疑いを逃れることができると思ったから。

問三 B (一) あえてうごかず (二) 決して動かなかつた

C (一) またうたがわず (二) 二度とは疑わなかつた

問四 氷は郡卒の家の中に百斛の酒を貯え、郡卒の生涯を全うさせた

氷は郡卒のために一生その家に百斛の酒が絶えないようにしてやった

問五 一見狂痴な言動を通して、常識的な規範や世俗的な名声にとらわれない真の人間らしい自由を獲得しているということ。